

善意の架け橋 ポーランド魂とやまと心

▽**阪神大震災**のあった翌年、1996年夏に震災孤児30名が**ポーランド**に招かれ、約3週間、各地で歓待を受けた。震災孤児が帰国するお別れパーティーに、歩行もままならない4名の高齢者が出席し、「75年前の自分たちを思い出させる可哀想な日本の子どもたちが**ポーランド**に来たからには、是非、彼らにシベリア孤児救済の話聞かせたい」と語りはじめた。

▽1919年、**ポーランド**が**ロシア**からようやく独立した頃、**ロシア**国内は革命、反革命勢力が争う内戦状態にあり、極東地域には10数万の**ポーランド**人がいた。特に親を失った子供たちは極めて悲惨な状態に置かれていた。「せめてこの子供達だけでも生かして祖国に送り届けたい」との願いから、同年9月ウラジオストク在住の**ポーランド**人によって、「**ポーランド**救済委員会」が組織された。

▽救済委員会は欧米諸国に援助を求めたが、ことごとく拒否され、窮余の一策として日本政府に援助を要請した。この嘆願は**外務省**を通じて**日本赤十字社**にもたらされ、わずか17日後には、「シベリア孤児救済」が決定された。

▽驚くべき即断であった。**日赤**の救済活動は、シベリア出兵中の帝国陸軍の支援も得て、決定のわずか2週間後には、56名の孤児第一陣がウラジオストクを発って、敦賀経由で東京に到着した。それから、1922年夏までに合計765名が救出された。

▽到着した**ポーランド**孤児たちは、日本国民の多大な関心と同情を集めた。慰問品を持ち寄る人々、寄贈金を申し出る人々は後を絶たなかった。しばしば見舞いに来てくれた裕福な日本人の子供が、孤児たちの服装の惨めなものを見て、自分の着ていた最もきれいな衣服を脱いで与えようとしたが、こんなことは一度や二度ではなかった。

▽「日本人が**ポーランド**の児童のために尽くしてくれたことは、**ポーランド**はもとより米国でも広く知られている。ここに、**ポーランド**国民は日本に対し、最も深い尊敬、最も深い感銘、最も深い感恩、最も温かき友情、愛情を持っていることを伝えたい」と。

▽元**ポーランド**大使・兵藤長雄氏の「善意の架け橋—ポーランド魂とやまと心」に詳しい。日本の教科書には載っていないが実話だ。先のトルコの「100年目の恩返し」、あるいはTVで知られるようになった「敵兵を救助せよ」、次にお届けする「ゼネラル樋口」など日本の善行は殆どが日本発ではなく海外発が多い。堂々と日本の教科書で教えるべきだろう。

カテゴリ: [コラむ](#) フォルダ: [指定なし](#)   

[コメント\(2\)](#)

タグ: [善意](#) [ポーランド](#) [やまと心](#)

コメント(2)

[コメントを書く場合はログインしてください。](#)

2010/09/08 17:17



Commented by [causal](#) さん

花うさぎ様、大変失礼いたしました。
拝見いたしました。

私はこの本を2009年に読んだのですが、この事業のコアの部分すなわち誰がこの事業にゴーサインをだしたのかが記されておらず悶々としておりましたがある時、気付きました。

本にはこの救済事業の最終決断者の名は記されてはいません。

しかし。多くの孤児達を守護されたその方の御名を導き出すことは簡単なはず。

驚くべき速さで、外交関係もない国に対し、莫大な費用も省みず見返りなどはなから求めず、ただただ孤児たちに深い同情の念をよせ限りなき愛情を注がれ、異国の彼らを保護救済された。そして政府はおろか帝国陸軍まで動かすお力をもたれていたその方の御名は。

当時の日赤の名誉総裁は皇后陛下節子様。そして当時の臣下は常に天皇陛下の大御心を体して職務に励んでおりました。私にはご皇室の意向が臣下を動かしたとしか思えません。と言うよりはむしろ「ご皇室のご意向そのものであった。」としか思えません。



Commented by **花うさぎ** さん
To causalさん

2010/09/08 17:40

こちらにレスをつけて頂き恐縮です。二年前ですのでまだ画像や動画の貼り方が判らなかった時ですのでテキストばかりでした。

>と言うよりはむしろ「ご皇室のご意向そのものであった。」としか
>思えません。

おお～考えてみればその通りでしょう。そう考えると全てが腑に落ちますね。これは良い情報をありがとうございました(--)。